

◆◇オープンダイアログの誕生日・1984年8月27日の物語◆◇

(「えにしメール」2017.8.24 から)



世界各国の精神医療界から注目されているフィンランド生まれのオープンダイアログ、その創設者の話を直接、聴きたいと、主催の ODNJP の予想をはるかに超える963人が全国から集まりました。

左は、運営委員でフォトグラファターの神保康子さんが撮影してくださった会場風景。9000人近い警官がとりまいた1961年1月の「安田砦の攻防戦」を知っている私には、夢のようでした。

もう1枚の写真の中央が、主役のお二人です。フィンランド語バイリンガルのお2人(両端)に通訳をお願いしたので、2人とも母国語で、生き生きと話してくださいました

★本人のいないところでは。★

臨床心理士のヤーコ・セックラ教授と発祥の地、ケロプダス病院の院長だった精神科医のビルギッタ・アラカーレさんの対話から浮かび上がったオープンダイアログ誕生の日付は、1984年8月27日。この日から、ケロプダス病院では、「患者さん本人のいないところでは、その方について話さないこと」に決めたのだそうです。それが、患者さんの安心と信頼の基盤になってゆきました。



★未来への可能性★

オープンダイアログには7つの“作法”があります。たとえば、

- ① 診断も処方も、すべてご本人の前で、一緒に
- ② 24時間以内に、複数の専門職が患者のところに駆けつける
- ③ 患者・医師・ナース・臨床心理士・家族は「水平な関係」
- ④ 薬はなるべく使わない。

②～④は、いまの日本の診療報酬や文化の中では、絶望的な壁がたちふさがっているようにも思えます。けれど、

①はスタッフたちの考え方次第で、すぐにでも、実現できるような気がします。

現に、「えにし」のみなさまが実践されている在宅ケアやターミナルケアの世界では、日常的に行われているのですから。。